紀尾井だより

11/12 November / December 2021 [Vol.150]

KCO名曲スペシャル　ニューイヤー・コンサート2022
新年の幕開けをウィーンの香りとともに

2021年度下期
邦楽主催公演 一挙ご紹介！

連載

邦楽名曲解体新書 私のおすすめこの一曲
山田流箏曲『竹生島』

クラシック音楽のテーマに基づく3つの話
「未完成」をめぐる3話

紀尾井町音楽散歩 第4回
音楽家交流のまち　紀尾井町

紀尾井ホール

© ヒダキトモコ

KCO名曲スペシャル　ニューイヤー・コンサート2022

新年の幕開けを ウィーンの香りとともに

新年を寿ぐプロジェクトとして、紀尾井ホールと紀尾井ホール室内管弦楽団（KCO）は2022年1月に3日にわたって『KCO名曲スペシャル ニューイヤー・コンサート2022』を開催します。

「ニューイヤー」といえばウィーン・フィルですが、紀尾井でウィーン・フィルといえばライナー・ホーネック。そう、指揮者はもちろんKCO首席指揮者ホーネックが務めます。彼のホームグラウンドであるウィーン・フィルのニューイヤー・コンサートの音楽的エッセンスをホーネック&KCO流にアレンジしてお届けするのが、この『KCO名曲スペシャル ニューイヤー・コンサート2022』というわけです。

早速、その内容をご紹介しましょう。

プログラムを組み立てるにあたっては、3つの大きな柱を立てました。

①ウィーンにゆかりのある作曲家・作品

②新年を迎えるにふさわしいワクワク感や、ハレの日を彩るエレガントさ、華やかさ、遊び心

③ホーネックのヴァイオリンの魅力

まずは①から。プログラム全体をモーツァルト、ランナー、シュトラウスと、すべてウィーンの作曲家で構成しました。これらの作品を世界でもっとも熟知するウィーン・フィルのコンサートマスターが指揮し、演奏するのですから、本場ムジークフェラインが放つウィーンの香り・情緒をたっぷりと味わっていただけるはずです。

続いて②。新年の喜びをクラシック・

ファンも、これからクラシックに親しんでみたいというかたも一緒になって祝うために、前半をクラシックの名作、後半をシュトラウス特集の2部構成としました。

前半はモーツァルトが中心です。今回は彼が数字の「3」に基づいて書いた晩年の傑作、歌劇《魔笛》からもっとも有名な序曲で開始します。続いてはシュトラウス一家よりも先にウィンナ・ワルツの様式を確立したヨーゼフ・ランナーによる《モーツァルト党》。この作品は1曲目の《魔笛》をパロディ風に描いたワルツです。1曲目に聴いたばかりの《魔笛》序曲と同じ開始なので、初めてのかたは驚かれるに違いありません。全体は《魔笛》オペラの名旋律を散りばめるだけでなく、リズムをずらしたりもして遊び心満載なので、とても面白くお聴きいただけるでしょう。そして前半最後はモーツァルトのヴァイオリン協奏曲第1番で締めくくります。

そしてプログラム後半はこの時期の定番中の定番、ヨハン・シュトラウス2世の喜歌劇《こうもり》序曲から始まります。エレガント、旋律美、華やぎ、スピード感、それらすべてを兼ね備えた傑作です。

その後も《シトロン(レモン)の花咲くところ》や《南国のバラ》といった有名なワルツの間に多くのポルカを緩急よく挟み、聴きやすくかつ楽しめるよう配分しました。特にポルカ・シュネルはテンポも速く打楽器も活躍するのでワクワクすること請け合いです。びっくりするような打楽器(?)も登場しますのでご期待ください。

③は、ホーネックのソロでモーツァルトのヴァイオリン協奏曲第1番を。作品自体もチャーミングですが、ソリストを務めるホーネックが、本場ウィーンらしい洗練された音色とフレージングをたっぷりと聴かせてくれます。

またこれだけでなく、後半のシュトラウス・コーナーでもホーネックはいくつかの曲で指揮をしながらヴァイオリンを演奏します。これはかつてウィーン・フィルのコンサートマスター(ホーネックの先輩)で、長年にわたってニューイヤー・コンサートの指揮者も務めたボスコフスキーが行ったスタイルですので、詳しいかたには懐かしく、当時をご存じないかたには珍しく、すべてのかたに喜んでもらえる試みです。

洗練、恍惚、興奮、驚き、笑い、ときめき、そしてもちろんそれを実現するKCOの魅力……これらをすべて詰め込みました。

新年の音楽始めは、どうぞ紀尾井の『KCO名曲スペシャル ニューイヤー・コンサート2022』でお楽しみください。

(制作プロデューサー/松本 學)

首席指揮者 ライナー・ホーネック © ヒダキトモコ

日鉄ソリューションズ株式会社 発足20周年記念

紀尾井ホール室内管弦楽団 特別演奏会
KCO名曲スペシャル
ニューイヤー・コンサート2022

ライナー・ホーネック(指揮・ヴァイオリン)
紀尾井ホール室内管弦楽団

2022 1/21 (金) 19:00
2022 1/22 (土) 14:00
2022 1/23 (日) 14:00

【プログラム】

[モーツァルト]
歌劇《魔笛》K.620〜序曲

[ランナー]
ワルツ《モーツァルト党》op.196

[モーツァルト]
ヴァイオリン協奏曲第1番変ロ長調 K.207

[ヨハン・シュトラウス2世]
喜歌劇《こうもり》〜序曲
ポルカ・フランセーズ《小さな水車》op.57(これのみヨーゼフ・シュトラウス作曲)
ポルカ・シュネル《チクタク・ポルカ》op.365
ワルツ《シトロン(レモン)の花咲くところ》op.364
新ピチカート・ポルカ op.449
ポルカ・シュネル《観光列車》op.281
ワルツ《南国のバラ》op.388
ポルカ・シュネル《山賊のギャロップ》op.378

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

2021年度 下期 邦楽主催公演 一挙ご紹介!

お待たせしました！ 邦楽公演後半は、2020年度で延期になった公演を中心にお届けします。

邦楽探検 詞章の謎 File.2
長唄「越後獅子」(2019年度振替公演)

2021年 11月2日(火)18:30

邦楽は敷居が高い、そもそも歌詞の意味がよくわからない……。紀尾井ホールがお届けするシリーズ「邦楽探検 詞章の謎」は、そんな悩める「壁」を取り払い、邦楽をもっと楽しんでいただく企画です。第2回は、江戸時代に人気のあった角兵衛獅子の雰囲気を長唄に写し、リズミカルな調子と越後の名勝・風物を歌詞に織り込んだ長唄「越後獅子」を取り上げます。

［演目］解説と舞踊 長唄「越後獅子」
［出演］西川扇左衛門(立方)
今藤長一郎
杵屋正一郎
杵屋喜太郎(唄)
今藤長龍郎
今藤政十郎
今藤龍市郎(三味線)
藤舎呂英連中(囃子)
児玉竜一(ご案内)

西川 扇左衛門

紀尾井たっぷり名曲4
義太夫「伊賀越道中双六 岡崎の段」

2022年 2月27日(日)14:00

素浄瑠璃は人形を伴わず、語り(太夫)と三味線のみで物語を表現します。人物のみならず情景描写すべてを太夫一人が語り分け、三味線が多彩な音色で支えます。第4回は、天明三年(1783)に近松半二らによって書かれた「伊賀越道中双六」です。仇討の過程を道中双六に見立てて、鎌倉から郡山、沼津、岡崎などを経て伊賀上野で終わります。その中の名曲「岡崎の段」を実力もたっぷりな竹本千歳太夫と豊澤富助が勤めます。

［出演］竹本千歳太夫(浄瑠璃)、豊澤富助(三味線)
児玉竜一(解説)

竹本 千歳太夫、豊澤 富助

紀尾井 午後の音楽会 祭

2020年度に開館記念として企画しておりました「祭」公演を満を持して再開します。

― 供う ―

日本民謡によるコラボレーション“祭り”は、三味線とコントラバスに、ピアノもお囃子も参加するお祭です。郷愁を誘う旋律や賑やかな祭りの雰囲気と、ワクワクする作品ができました。

2021年 11月17日(水)13:30

［演目］清元「申酉(お祭)」、サン=サーンス「動物の謝肉祭」より《白鳥》
「日本民謡によるコラボレーション“祭り”」
［出演］清元栄吉(清元三味線)、池松宏(コントラバス)ほか

清元 栄吉

池松 宏

― 披く ―

小鼓の音色、大皷・太鼓の音量とリズム、能管と篠笛の異なった動きにファゴットの旋律が組み合わさった「『囃子組曲』より」。囃される相互の会話をお楽しみください。

2022年 1月13日(木)13:30

［演目］長唄「元禄風花見踊」
ストラヴィンスキー「春の祭典」第1部〈大地礼賛〉、「囃子組曲」より
［出演］堅田新十郎(邦楽囃子方)、水谷上総(ファゴット)

堅田新十郎

水谷 上総

― 憶う ―

霊獣・獅子が現れ、牡丹の花に戯れ、勇壮な舞を舞う形式「獅子もの」から、その特徴的な獅子の狂いの合方とフラメンコギターの旋律が織りなす白熱の演奏は必聴です。

2022年 3月24日(木)13:30

［演目］「レスペート・イ・オルグージョ～誇りと敬意～(ファルーカ)」
長唄「神田祭」、「長唄とフラメンコギターによる獅子」
［出演］杵屋利光(唄)、稀音家祐介(三味線)、沖 仁(フラメンコギター)ほか

杵屋 利光

稀音家 祐介

沖 仁

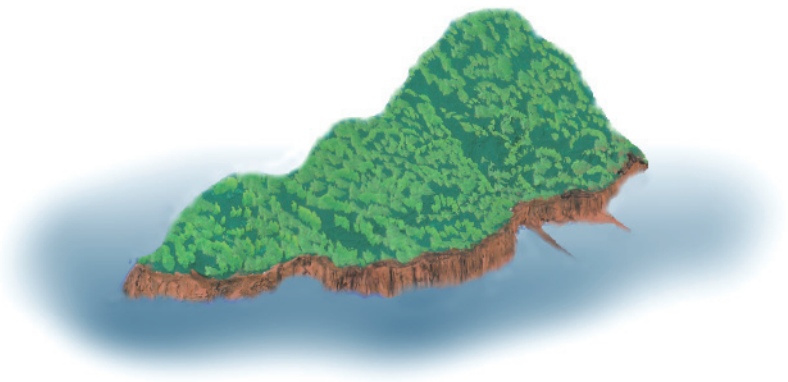
※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールホームページをご確認ください。

邦楽名曲解体新書

私のおすすめこの一曲

山田流箏曲『竹生島（ちくぶしま）』

お話／萩岡松柯（はぎおかしょうか）さん



能の『竹生島』をモチーフとして誕生

私が所属している箏の流派「山田流」は、江戸時代に山田検校（けんぎょう）が江戸で創始した流派です。箏曲は「弾き歌い」といって、楽器演奏も歌も一人で行います。山田流の場合は演奏において重きを置いている「歌」に注目していただきたいですね。風景の美しさを讃える曲以上に、物語性のある曲のほうが初めて箏曲を聴く方に興味を持って聞いていただけるのではないかと思い、今回は『竹生島』を選びました。こちらは能楽『竹生島』を元に作られた箏曲で、竹生島参詣の折に弁財天と龍神が現れるという幻想的な体験が表現されています。

山田検校は河東節（かとうぶし）（※）や謡曲を参考に多くの曲を作っています。『竹生島』は山田検校の作曲ではありませんが、謡曲を題材にしている点は同じ。他にも箏曲には謡曲を題材にした曲が結構あります。箏曲に限らず、能は日本の芸能のさまざまな分野に影響を与えていますね。例えば「道成寺」。能楽、歌舞伎、文楽の演目にありますが、箏曲にもあるんですよ。衣装を替えたり道具で場面を切り替えたりできる歌舞伎と違って、箏曲は箏と歌だけでしか表現できないので、歌詞をよく聴いていただきたいと思います。お箏はメロディーの美しさを聴くだけでも楽しめますが、私は山田流の魅力はやはり歌にあると思っているので、演奏会では歌詞を書いた紙を毎回配るようにしています。

物語が進むにつれダイナミックな展開に

『竹生島』の歌詞の内容や曲の聴きどころを見ていきましょう。琵琶湖に浮かぶ竹生島の神社に船でお参りに行く人の視点で、船から見た景色が讃えられ、その後、弁財天と龍神が現れて舞い踊るというストーリーです。船頭との問答（会話）では芝居のようなやりとりが展開されます。「不思議やなこの島は、女人禁制と承りてありしが、あれなる女人は何として参られ候ふぞ（不思議だなあ。この島は女人禁制と聞いているけれどあそこに女性が見えませんか？）」と尋ねれば、船頭は「弁財天は女体にてその神徳もあらたなる……（いえ、あれは人間ではなく弁財天なんです）」と。私は箏の師匠から、「不思議やな」と歌う時は「本当に不思議だと思いながら歌いなさい」と言われました。また、白波が立ち龍神が出現する時は、神様なので威厳のある声を出すように意識しています。実はこの龍神は、先ほどの船頭なんですよ。「不思議やな」から始まり、終盤に向けて場面がどんどんダイナミックな展開になっていきます。

曲の後半で挿入される「楽（がく）」にも注目してください。「楽」とは雅楽のような雅やかなメロディーで、箏を「トンカラリン」と弾いて神様が本当にいるような神々しい雰囲気を表します。一回、二回、三回と段階的に挿入され、神聖な雰囲気が徐々に高まってきます。

このように『竹生島』は問答や楽が効果的に挿入されており、音楽を聴くというよりもミュージカルを見ているような感じに近いかもしれません。お箏といえばお姫様が弾くようなおしとやかなイメージを持たれるかたも多いかもしれませんが、私個人としてはこの『竹生島』に関しては、格好良さやドラマチックな部分に注目していただきたいと思っています。

※江戸で創始した浄瑠璃（三味線音楽）の一流派

取材・文・イラスト／尾花 知美（月刊『江戸楽』編集部）

萩岡松柯

東京都生まれ。幼少より、父・萩岡松韻に箏の手ほどきを受ける。平成十四年より、山田流箏・三弦を鳥居名美野師に師事。同十九年東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。同二十一年同大学修士課程修了。同二十五年同大学博士課程修了。同三十一年「第二十三回日本伝統文化振興財団賞」・同年（令和元年）「第七十四回文化庁芸術祭新人賞」受賞。

クラシック音楽のテーマに基づく3つの話

「未完成」をめぐる3話

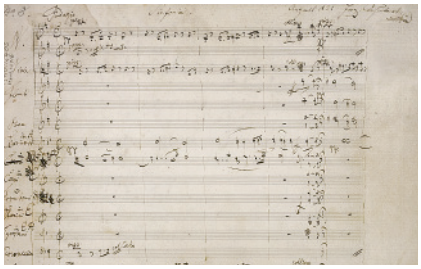
未完成のまま遺された作品の中には、現在も愛され頻繁に演奏される〝未完の傑作〟が数多くあります。今回は3つの視点から、代表的な作品をクローズアップして、その魅力をご紹介します。

1 なぜ未完成かはいまだに不明

未完成の作品には、ミステリアスな魅力がある。「なぜ最後まで書き上げられなかったのか」が、はっきりとはわからないからである。もちろんモーツァルトの《レクイエム》のように、作曲家の死という外的な理由が明らかなケースもある。しかしシューベルトの《未完成交響曲》のように、全盛期の作品でありながら断片しか残っていない場合には、その事情を詮索したくなる。

とは言うものの、この作品では、理由を特定することは不可能である。シューベルトは1823年、シュタイアーマルク音楽協会から名誉会員に迎えられたが、そのお礼に同曲の2楽章を贈ったという。「完成していない作品を手放すはずがないので、2楽章で完結」というのが、一部の人々の主張だ。しかし総譜に付された感謝状は、関係者が楽譜を譲り受けた後、捏造した可能性があるらしい。一方スケルツォの草稿は、トリオ第16小節までがパルティチェル（簡易スコア）で残っている。「3拍子の曲が3回連続するので中断した」という根拠には説得力があるが、完全に断定はできない。

シューベルト

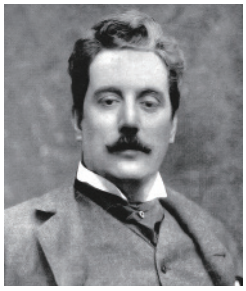

シューベルト《未完成》自筆譜

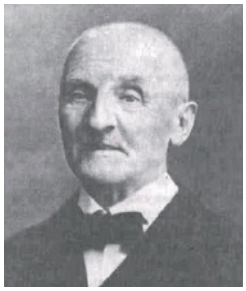
2 完成しているのにカット上演

これに対し、全曲演奏が可能なのに、未完としてカットされてしまう作品もある。ベルクの《ルル》である。同オペラは、終幕のオーケストレーション前に作曲家が急死したために、第2幕末尾から組曲版（本人が完成）のラスト2曲へとジャンプして上演されることが多い。一時期は、ツェルハが補筆した3幕完全版が好んで上演されたが、最近は「第3幕は出来が悪い」と主張する指揮者や演出家がいて、短縮上演の方が増えている。

しかしこれは、明らかに誤謬である。というのは、作品はパルティチェルのかたちで（少なくとも内容的には）ほぼ完成しているからだ。ツェルハはそれを管弦楽化したのであって、作曲中のスケッチを補筆したマーラーの交響曲第10番等とは事情が異なる。そもそも《ルル》の音楽は、全曲の中心を軸にシンメトリカルに書かれており（そこで12音列が反転する）、物語の上でも、同箇所を頂点にルルの社会的上昇と没落が描かれる。その構造は、3幕形式でなければ当然意味を成さない。終幕が好んで削られるのは、むしろ「版権が切れていないパート譜のレンタル料が莫大」という、実際的な理由からだろう。

ベルク


プッチーニ


ブルックナー

3 結末に悩んで完成に至らず

そして「未完成」のもうひとつのタイプは、「曲の終わらせ方がわからなかった」というもの。プッチーニの《トゥーランドット》やブルックナーの交響曲第9番は、一般には「本人が死んだために完成しなかった」とされている。しかし実際には、作曲する時間は十分にあった。例えばプッチーニは、死の1年前から〈リューの死〉以降に手をつけておらず、スランプに陥っていた。脱稿できなかったのは、氷のように冷たい主人公が情熱的に愛する女性へと変貌するプロセスが、音楽化できなかったからである。

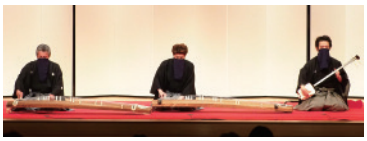
フィナーレで天国の扉を描こうとして、2年にわたって作曲し続けたブルックナーについても、同じことが言える。「女性」と「信仰」をライフワークとした両者が、まさにその点で悪戦苦闘したことも、偶然とは思えず興味深い。

文／城所孝吉（音楽評論）

フォトレポート 最近の公演から

7.15(木) 音楽でつづる文学4 平家物語—敦盛(あつもり)

熊谷次郎直実と敦盛の物語はいつの世も人々の心を惹きつけます。本公演では敦盛が描かれた山田流箏曲平家琵琶、大和楽(舞踊)をお楽しみいただきました。



9.9(木) 邦楽探検 詞章の謎 File.1 清元「三社祭」

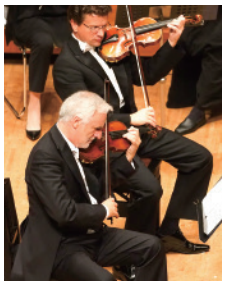
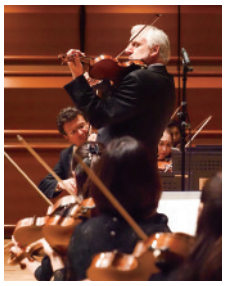
アンケートより

一部(解説)を聞いた上で二部(踊り)を見たことで想像以上に自身の理解が深まり、また大変勉強にもなった。

9.17(金)・18(土) 紀尾井ホール室内管弦楽団 第127回定期演奏会

アンケートより

・こんな緻密で情熱に溢れたブラームスを聴けるとは。
・ホーネックさんの柔らかい音色が久しぶりに聴けてうれしかった。

編集後記

紀尾井ホール室内管弦楽団は2020年2月以来、約1年半ぶりに首席指揮者ライナー・ホーネックと、コンサートマスターのアントン・バラホフスキーをお迎えしました。公演の開催に際しまして、ご協力くださったすべての皆さまに感謝いたします。非常時に音楽は不要不急だという声もきっとあるでしょう。時として「不急」なのかもしれません。でも、決して「不要」でないことを改めて感じ、胸に刻んだ1週間でした。

今号の表紙 『トランペットとアマリリス』[協力] 花/hanadouraku トランペット/株式会社ドルチェ楽器

オーケストラの花形、トランペットの原型は紀元前、木や茎で作られたラッパまで遡りますが、音楽演奏に使われる楽器としてはローマ時代に出現したと言われます。その後開発が進み、19世紀には現在の形になりました。ユリに似た華やかなアマリリスは球根植物で、さまざまな色、大きさがあります。トランペットのベルの部分と似ていませんか?花言葉は「誇り」です。

紀尾井ホールにご支援いただいている企業および個人の方々です

紀尾井サポートシステム会員 (五十音順・「株式会社」等表記及び敬称略)

《特別協賛会員》 A.ランゲ&ゾーネ/日鉄ソリューションズ/三菱商事/三菱地所
《みやび会員》 伊藤忠商事/大島造船所/KDDI/菅原/住友商事/丸紅/三井住友銀行/三井物産/三井不動産/三菱商事/三菱地所/メタルワン ほか匿名2社
《ひびき会員》 オカムラ/きらぼし銀行/高砂熱学工業/竹中工務店/山下設計
《みどり会員》 青鬼運送/赤坂維新號/赤坂 エクセルホテル東急/今治造船/ヴォートル/エーケーディ/NTTドコモ/荏原冷熱システム/鹿島建設/ザ・キャピトルホテル 東急/三協/清水建設/上智大学/西武プロパティーズ/大成建設/千代田商事/テェイスト・ライフ/東芝ライテック/永田音響設計/ニュー・オータニ/ハウス食品グループ本社/パナソニック/富士フイルムビジネスイノベーションジャパン/松尾楽器商会/三井住友信託銀行/三菱UFJ銀行/三菱UFJ信託銀行/三菱UFJモルガン・スタンレー証券/ミュージション/明治座舞台/ヤマハサウンドシステム/有帆
《あおい会員》 青木陽介/石崎智代/磯部治生/井上善雄/植竹浩樹/大武和夫/片山能輔/久保祐子/栗山信子/佐久間庸行/佐部いく子/清水 正/清水多美子/清水康子/白土英明/鈴木 亮/高下謹壱/武上由佳/田中 進/外山雄三/鳥居荘太/中塚一雄/中西達郎/西村剋美/原田清朗/北條哲也/堀川将史/牧本惠美子/松枝 力/松本美恵/簑輪永世/宮本信幸/陸田 実/村上喜代次/持留宗一郎/八木一夫/八木晶子/山内寿実/吉峯裕毅
ほか匿名23名 計147口 (2021年10月1日現在)

特別支援会員 (五十音順・「株式会社」等表記略)

アステック入江/五十鈴/NST日本鉄板/NSユナイテッド海運/NSユナイテッド内航海運/エヌエスリース/エヌテック/王子製鉄/大阪製鐵/九築工業/草野産業/黒崎播磨/合同製鐵/小松シヤリング/山九/産業振興/三晃金属工業/サンユウ/三洋海運/ジオスター/新日本電工/スガテック/大同特殊鋼/大和製罐/高砂鐵工/高田工業所/鶴見鋼管/DNPエリオ/テツゲン/東海鋼材工業/東邦シートフレーム/トピー工業/日亜鋼業/日鉄環境/日鉄ケミカル&マテリアル/日鉄建材/日鉄鋼管/日鉄鉱業/日鉄鋼板/日鉄興和不動産/日鉄ソリューションズ/日鉄テックスエンジ/日鉄ドラム/(旧)日新製鋼/日鉄物産/日鉄物流/日鉄物流君津/日鉄物流八幡/日鉄保険サービス/日鉄ボルテン/日鉄溶接工業/日本金属/日本触媒/濱田重工/富士鉄鋼センター/不動テトラ/幕張テクノガーデン/松菱金属工業/三島光産/宮崎精鋼/吉川工業
日本製鉄 (2020年度、匿名一社除く)

紀尾井だより 11〜12月号 2021年(令和3年)11月1日発行[隔月発行・通巻150号] ●企画・編集発行：公益財団法人 日本製鉄文化財団 内田勇人 ●編集・デザイン・印刷：株式会社 エイチ・アンド・アール プロモーション

清水谷坂沿いにはかつて近衛秀麿宅があった

紀尾井町音楽散歩 [第4回] 音楽家交流のまち 紀尾井町

今回は、かつて紀尾井ホールの近くに住んでいた、日本における西洋音楽の偉人たちをめぐるお散歩です。

幸田 延

最初に紹介する**幸田延**(こうだのぶ)(1870-1946)は、明治時代から活躍した音楽家です。最初期の音楽留学生としてヨーロッパで活動後、東京音楽学校の教授となり三浦環らを育て、山田耕筰も教えを乞うほどの大教師でした。幸田は1911年に現在の紀尾井町3番地(麹町中学校や全国都道府県会館が並ぶ通称"プリンス通り"の中ほど辺り)に住み始めますが、その後、敷地内にステージを備えた専用の建物「洋洋楽堂」を設けます。この音楽堂には彼女の招きで、ヴァイオリンのミッシャ・エルマンやピアニストのレオポルド・ゴドフスキーといった当時の国際的な演奏家らが来日の際に立ち寄り、演奏した記録が残っています。私的ながらも、はるか100年前から紀尾井町には世界的な音楽家の演奏が響いていたことになります。

さて、幸田邸から歩いて数分のところ、清水谷坂を下った麹町4丁目には現在、参議院麹町議員宿舎が建っていますが、かつてここに広大な屋敷を構えて暮らしていたのが、指揮者の**近衛秀麿**(このえひでまろ)(1898-1973)です。学生時代から西洋音楽に強い関心を示していた近衛は東京帝国大学中退後、26歳のときにヨーロッパへ渡り、大指揮者エーリヒ・クライバーらに師事します。帰国後、山田耕筰とともに日本のオーケストラ振興を主導し、現在も活動を続けるNHK交響楽団や東京交響楽団など、数多くのオーケストラ発足に尽力しました。

近衛秀麿

近衛が日本のオーケストラ設立に身を投じた一方、戦後日本の音楽教育発展に献身したのが**齋藤秀雄**(さいとうひでお)(1902-1974)です。齋藤は千代田区一番町、現在のイギリス大使館の隣地で育ち、上智大学に入学するものの、音楽に専念するためドイツへの留学を決意します。このとき齋藤は、ある人物に随伴するかたちで渡欧しますが、その人物こそほかならぬ近衛秀麿でした。帰国後、齋藤は近衛が設立した現在のN響に首席チェロ奏者として入団、その後、教育者として桐朋学園の前身となる「子供のための音楽教室」を設立するのです。ちなみに、前述の幸田延にピアノを学び、「洋洋楽堂」でも演奏した経験を持つ音楽家の山本直忠(1904-1965)は近衛秀麿に指揮を師事しますが、直忠の息子で作曲家としても活躍した山本直純(1932-2002)は、齋藤秀雄から指揮を学んでいます。このような、紀尾井ホール周辺で繰り広げられていたであろう、音楽家同士の闊達な交流を想像するだけで、ワクワクしてしまいます。 <K>

齋藤秀雄

公式SNSで最新情報配信中
紀尾井ホール
紀尾井ホール室内管弦楽団

チケットのお申込み
紀尾井ホールウェブチケット https://kioihall.jp/tickets
※紀尾井ホールチケットセンターの電話受付は3月31日をもって終了いたしました。

紀尾井ホール
公益財団法人 日本製鉄文化財団(にっぽんせいてつ)
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号 TEL.03-5276-4500(代表) FAX.03-5276-4527 https://kioihall.jp